

クリエイティブシティにおける市民の役割に関する考察 要旨

氏名：島 ひとみ

グローバル化によって常に変化するようになった現代都市の在り方に対し、文化芸術を重んじ地域の良さを活かす「クリエイティブシティ」が都市政策の1つの解として注目を集めている。日本では、都市政策としてクリエイティブシティ・ヨコハマを掲げる横浜市が代表的なクリエイティブシティとして認知されている。本稿では、クリエイティブシティの定義について先行研究を元に整理し、その中における市民の重要性を指摘した後、クリエイティブシティ・ヨコハマを事例として取り上げ、その目的と背景を示した。

クリエイティブシティ・ヨコハマについて研究するにあたり、根本的に横浜が日本の代表的なクリエイティブシティとして認識されている理由を検証するため、横浜のクリエイティブ産業の実態を特化係数によって分析した。その結果、他の国内12大都市と比べて横浜市の産業規模は目立たない水準であることが明らかになった。

数値による分析とは異なる側面から横浜の特長を探るため、クリエイターへの聞き取り調査の結果を元に考察を行った。調査から、横浜のクリエイティブシティとしての強みはクリエイター・市民・行政・企業・他の連携都市などを繋ぐネットワーク構造にあることが導かれ、それによってもたらされる創造の広がりや持続可能性、都市の寛容度の高さであることが分かった。最終的に、横浜のネットワーク構造に位置付けられる市民の役割として、①クリエイターとの交流を通じて得た創造的視点を地域の街づくりに活かす主体、②地域コミュニティへの積極的参加を通じて、横浜のネットワーク構造の強みを広めながら支えていく主体、の2点が重要であるという結論を得た。